

オリンピック 熊倉美咲氏

ボート史に刻む一歩

戸田オリンピックピックボートコースがよめきました。6月12日におこなわれたボート競技の国体県予選、大自然をバックに水面を滑るように疾走する一糸乱れぬクルーたちのスピードと力強さに圧倒されます。

ここは昭和39年に開催された東京五輪の漕艇会場で、隣接する道路はオリンピック通りと名前が付けられています。水面の長さは2・5kmに及ぶ長大なもので、コースの東端には国立スポーツ科学センターや各大学、実業団の艇庫がずらりと並んでいます。

このコースで育ち、日本の女子ボート史に大きな1歩を刻んだオリンピックがいます。熊倉美咲選手(現姓浜田・戸田中央総合病院RC)です。

●夢を描いて

第29回北京五輪女子軽量級ダブルスカル順位決定戦(7位、12位)、日本女子ボート界初の出場でした。挑んだのが熊倉美咲と岩本亜希子(アイリスオーヤマ・長野)のクルーです。コンビネーションが最も必要とされる種目ですが、早大の先輩と後輩の2人が、呼吸とリズムなどの一体感は抜群です。

距離は2000m。6カ国のクルーが出場しました。息を呑

小原 敏彦 スポーツライター

新埼玉スポーツ列伝

④1

むスタート。電光合図と同時に迫力あるダッシュが水面を大きく揺らします。日本クルーは出遅れましたが中盤からグングンと加速します。1000mでは4位、さらに1500mでは3位に浮上しました。

熊倉選手がリズムをつくるコール(掛け声)を出します。500mから1000mのタイムは全体のトップ、終盤のストロークもスムーズで世界のトップクルーを相手に1艇身以内に位置するデットヒートです。なだれ込む大混戦のゴール、7分8秒49の好タイムで初の9位という快挙を成し遂げたのです。

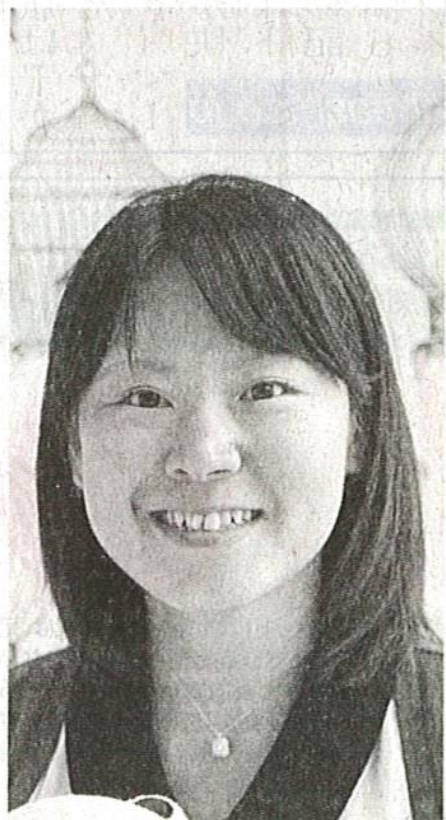
熊倉選手が桶川東小学校時代の文集に書いた夢は「オリンピックに出たい」でした。それから13年の時を経て夢は思わぬ形で実現したのです。中学時代は競泳(バタフライ)選手として国体に出場、水泳界期待の星でした。しかし、浦和第一女子高校入学と同時に心機一転、なん

とボート部に入ったのです。難しい新たな挑戦でした。オールを握った当初、手の平がまめでボロボロになり漕ぐのも辛い日もありましたが耐えました。やがてこれまでに体感したことのない水上でのスピード感と爽快さに夢中になります。長い手足がローイング技術を高め、水泳で培った身体能力が技術を後押ししたのです。

●勝利哲学

早大入学後は練習量をアップします。朝は陽が昇る前、夜は真っ暗になつてもひたすら練習に励みました。「漕いだ量こそが勝利を生む」が信念でした。2002年には全日本大学ボート選手権女子シングルスカルで初優勝、2007年には全日本ボート選手権を制します。そ

して2008年、岩本選手とダブルスカルを組み北京五輪アジア予選を制覇、五輪への出場権を得たのです。息の合った2人の美しいペアと速さがボートへの認知度を高めました。熊倉氏は今、戸田中央総合病院(中村隆俊会長)RCで振興活動に取り組んでいます。



熊倉美咲氏